

平成 28 年 10 月 25 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23320139

研究課題名(和文)被差別民衆史・研究方法論

研究課題名(英文)a history of the peoples who discriminated against

研究代表者

服部 英雄(Hattri, Hideo)

九州大学・比較社会文化研究科(研究院)・名誉教授

研究者番号：60107521

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文)：差別される環境に耐えて、力強く生きた人びとの歴史を明らかにした。これまでの歴史叙述では賤民視された彼ら彼女らは貧しく劣悪な環境におかれ、虐げられた生活のみを強いられたとされてきた。それは一面ですべてではない。

教科書には河原ノ者は河原に住んだと記述するものがある。このような歴史理解では、子孫が祖先の活動を誇ることはできない。「ムラ」がなかなか解体しなかったのはなぜか。富みは確実にあった。皮革製品・製作加工業の独占である。海外交易にても不足を補充、富みを蓄積した。周囲の目は残酷で冷たかったが、かばいあうムラの中は暖かく、一般ムラよりもむしろ真に人間らしい、やさしさがあつた。

研究成果の概要(英文)：We have revealed a history of the Eta(Kawara-no-mono) and Hinin who thrived even in a discriminated against environment. They have been described as being despised and having no choice but to live a downtrodden life in poor and inferior living conditions. Some textbooks say that they lived on Kawara districts. When the Kawara-no-mono was historically recognized only as the people living on dry river beds, how can their descendants be proud of their ancestors' way of life? The Societies (villages) continued to exist. Why? They surely had wealth. Without tanned skins and hides, no one could make armors, sets of harness, taiko-drums, and footwear. Leather industries created a monopoly. When leather ran short, it was imported from outside Japan. They, being traded the leather exclusively and accumulated wealth. They were kind and gentle to the members, protecting themselves one another. They had more humane and gentler communities than the general public had.

研究分野：日本史

キーワード：賤視 皮革 太鼓 胴内墨書 皮多 非人 賤民視された人々の文化への貢献 賤民視された人々の社会的役割

### 1. 研究開始当初の背景

差別の歴史の解明は、現代社会での個々人の生活にも大きく関わる重要課題である。どこで生まれたのか、その一点のみで差別され迫害される。そのような社会構造が、いまなお潜在的に継続する。差別問題は未だに克服されたとはいえず、未裔に当たる人々は出自を問われることを、日々恐れながら生活している。なぜ、このような目にあうのか。差別された人々はその理由を本当に知りたいと思っている。

しかし歴史学研究者全体のなかで被差別民衆史・部落史に関心を持ち、論考を発表する研究者の数は、あまりに少ないように思われた。人権に関わる重要課題への取り組みは不十分である。2002(平成14)年以降、同和对策事業特別措置法・後継法にもとづいていた行政措置は次第に打ち切り、ないしは予算減少となって、各県下の人権研究所・部落史研究所の活動は低調とならざるをえない傾向が見られた。研究が高揚しているとはいえないし、歴史学者にも無関心な人は多く、むしろふれることを避ける人もいる。差別は自然に消滅していくものと発言する人もいるが、ネットの書き込み・落書きをみれば、いまなお、人権侵害の完全な消滅は、はてしない先にしかみえない。

### 2. 研究の目的

被差別民衆すなわち150年前、近世に賤民とされていた人々は、一般にマイノリティーとみなされているが、じっさいには全国平均で3%、福岡県の場合でいえば10%もいて、土族・卒族合わせた数よりは少ないけれど、土族よりは穢多の人口が多かったとされている。

教科書には河原ノ者が河原に居住していたというようなことが書かれている。学界でも疑問の声は上がらない。このように書かれた教科書を読む生徒のなかには、必ず子孫・未裔がいる。彼ら彼女らが、じぶんたちの先祖がそのようにあわれな生活であったのかと思いついてしまえば、決して祖先の仕事に尊敬を持つことはないであろう。否定の対象にならざるを得ない。

本研究はそのようなひたすら貧しく、悲惨で惨めで虐げられ続けた穢多や非人の姿ではなく、もっと力強く生き、かつ人々の生活に重要な貢献してきた被差別民の過去の姿を再現することを目指した。

被差別民衆は歴史的にも人々の生活に重要な貢献をはたしてきた。その実態を明らかにして差別の本質と解消を図る。

### 3. 研究の方法

各地の研究者、人権研究機関に所属する研究者や、同和教育に取り組む研究者、深い関心を寄せる研究者に研究協力者を依頼した。協力者との連携を図りつつ、情報を交換し、現地調査を行い、研究進化を図った。研究代

表者は皮革産業である太鼓の胴内銘文調査を各地太鼓店の協力を得て実施、また各地被差別地域をたずねて現地調査を行った。

### 4. 研究成果

奈良県立同和問題資料センター、福岡人権研究センター、佐賀部落解放研究所などの研究機関に所属する研究者と連携し、情報交換を行いつつ、被差別地域の現地調査も行った。西大寺叡尊の布教で知られる中世取石宿や、小泉八雲がたずね芸能のすばらしさを賞賛した松江の芸能村、大宰府迎賓館・般若寺周辺の村をたずねて歴史調査を行った。

研究協力者の竹中友里代氏は石清水社の神人が鹿革を生産加工し、高級品の菖蒲革製作に従事したことを明らかにし、穢多との商圏争いなどの実態を通じて神人の立場つまり皮革製作に関し牛馬皮革との差異・共通性を明らかにした。

同じく研究協力者の中村久子氏は対馬藩の非人史料を紹介した。対馬では賤視された人々に関わる史料が少なかったので、提供史料似よって今後の研究が図られよう。

同じく研究協力者の堤亮介氏はある町に伝わる太鼓の由来を明らかにした。

研究代表者の服部英雄は太鼓店の協力を得て太鼓の胴内銘文を収集した。この墨書から太鼓の履歴がわかる。なかにはりっぱな花押が据えてあるものもあった。この時代に識字層も限定された存在であったが、太鼓師は苗字を持ち、花押まで据えていた。百姓でも花押を書く人はほとんどいなかったので驚きである。

しかし通常では破れ太鼓にならない限り、中を見ることができない。これらを意識して集め、古今、各地の太鼓師が残してきたすばらしい仕事の軌跡を明らかにできると考え、全国太鼓店に協力を要請した。また文化財に指定されている太鼓は情報が公開されているものが多く、手広く収集を試みた。その中で明らかになったことをいくつかあげる。

誉田八幡宮、応永17年(1410)座太鼓胴縁および正平六年(1351)に製作された鞆鼓の銘文によれば、室町時代に誉田八幡宮にあった管弦方は、じつは天王寺伶人たる大秦氏に極めて近い存在、ないしは同一組織で、そのもとに太鼓師がいて修理を行っていた。天王寺伶人は雅楽寮官人の系譜を引くから、太鼓師も元来は朝廷の官人組織に組み込まれていたのであろう。元来地位は高かったと想定できる。

城時太鼓に村の責任者(年寄・庄屋)が署名した例が複数あった。これは太鼓製作を村が請け負った場合と考える。時太鼓の発注者は城主であるから藩からの注文である。

また日光輪王寺の太鼓にも天辺村年寄が三名連署していた。太鼓師としてではなく、御用太鼓村としての位署であった。輪王寺は徳川家光墓所であるから、事実上幕府か

らの要求に天辺村は応えていた。

池	寛永拾六年	1639	
	万治元年	1658	
上池	寛文九年	1669	閏十月
	宝永二	1705	乙酉
			池野村庄屋
池野村	正徳六	1716	丙申
			庄左衛門
			池野村庄左衛門
池野村	享保八	1723	癸卯
			池野村庄屋
池野村	享保拾五	1730	戊
			庄左衛門
		1822	
	文政五年		
			池野村太鼓
池野村	天保六	1835	(火)屋傳兵衛
大坂渡			
邊村八	嘉永六	1853	
軒町池		丑	池田屋
田屋			
大坂渡			大坂渡邊村
邊村中	不明		中ノ町太鼓屋
ノ町			(以下不明)
上池村	あるいは万治元年か		
大坂渡			
辺村吹			
田			吹田屋か

今回収集した太鼓および関連史料の範囲で、京都・天辺村(天部村)太鼓師であった橋村歴代を以下のように確認できた。

これまでの研究では天辺村の橋村は一人であると考えられていたようだが、実際は人の一生を越えた時間帯での同じ名前の使用や同一時間帯でのことなる橋村の存在もあって、複数の橋村家の存在、襲名、改名などがあったと推定できる。

以下に具体的に確認できた範囲での変遷表をあげる。

――・――・

慶長 13 (1608) 理右衛門 (京阪文書)

元和 2 (1616) 橋村又六 (生駒聖林寺太鼓 = 大坂城時太鼓・のびしょうじ『皮革の歴史と民俗』202頁)

元和 6 (1620) 橋村理右衛門 (花押なし、あるいは一部残か。岡崎宇頭・木田美濃守、元和 8 と筆跡同一、以下橋村略、三浦弥市太鼓店)

元和 8 (1622) 理右衛門 (密蔵院、元和 6 と筆跡同一、同上)

寛永 14 (1637) 理右衛門、のちに抹消して理兵衛・「京天部中西丁」(古川報告・野洲町悲願寺太鼓)

寛永 19 (1642) 理右衛門(野洲町・大谷家)

正保 4 (1647) 理右衛門 (近江照覚寺)

正保 5 (1648) 理右衛門 (人権博物館)

慶安 3 (1650) 理右衛門、のちに抹消 (唐津水主町、元和・正保の花押と同形だが、全く同じではない、襲名か)

慶安 3 (1650) 利右衛門 (唐津藩・正中丸、松下日記)

慶安 5 (1652) 理兵衛 (輪王寺・天下一太鼓、源左衛門、又兵衛(カ)も連署：理右衛門と理兵衛は花押も異なり当然別人)

寛文 4 (1664) 利兵衛 天部西ノ丁 (筑前革座記録、太鼓職人 176 頁)

寛文 5 (1665) 理右衛門 (彦根日枝神社)

寛文 7 (1667) 理右衛門 (大笹屋修理太鼓)

寛文 11 (1671) 理右衛門 (鞍馬下在地大惣文書・京都・近世 289 頁)

寛文 12 (1672) 理兵衛・中西町

延宝 5 (1677) 理右衛門 (勝山町：慶安 3 年花押に酷似、左側の筆の入り方にちがいがあがるが、木質のちがいによるか。あるいは 27 年の差か。それとも別人か)

延宝 7 (1679) 理右衛門 (中島論文、花押は勝山町に同形、同筆かは不明)

天和 3 (1683) 衛門(花押)( \* 理右衛門の花押らしい) 三条あまへ西丁南 太古屋(大津若宮)  
貞享 4 (1687) 理右衛門(花押)(大笹屋提供)  
元禄 2 (1689) 理右衛門(花押、下部の横線が薄くて読みづらい、浅野太鼓)  
元禄 3 (1690) 理右衛門(大笹屋提供)  
元禄 4(1691) 理兵衛 京天部にしかわ(鞍馬下在地大惣文書・京都・近世 290 頁)  
元禄 6 (1693) 理兵衛(「京天部西がわ」)  
元禄 6(1693) 理右衛門利重((近江照覚寺)  
元禄 6 (1693) 理兵衛、利兵衛(天部西がわ)  
元禄 7 (1694) 理右衛門利重・天邊南角 御太鼓屋、(萩東光寺)  
元禄 9(1696) 利右衛門利重作  
元禄 10 (1697) 理兵衛(天部西がわ・中島論文)  
元禄 10(1697) 理右衛門(天邊・『太鼓職人』)  
元禄 12(1697) 理兵衛(中島論文、花押の印象は元和期の理右衛門花押を踏襲)  
元禄 15 (1700) 利右衛門嘉重張(朝光寺)  
元禄 17(1702) 位置抹消読めず(花押のみ、理右衛門か、大笹屋)  
宝永元年(1704) 理右衛門(大崎八幡・小野崎)  
宝永 3(1706) 理兵衛 余部西側(鞍馬下在地大惣文書・京都・近世 297 頁)  
宝永 5 (1708) 理右衛門  
(正徳元) 卯 (1711) 利兵衛 福勝寺平太鼓・室根  
正徳 5 (1715) 利右(衛)門 天 角  
(『太鼓職人』)  
享保 7 (1722) 利右衛門(中島論文・人間文化)  
享保 20 (1735) 儀兵衛(鞍馬下在地大惣文書・京都・近世 315 頁)  
享保 20(1735) 利右衛門(細工人岡田大吉、堀田新五郎店)

元文元(1736) 利右衛門利重 天辺(青葉神社・神谷提供)  
元文 2 (1737) 天邊 利右衛門利重(室根関根太鼓店・神谷提供)  
元文 5(1740) 利兵衛 三条天部西かわ 三浦彌市  
元文 5(1740) 理兵衛 三条下ル天部西側(松本浄一家文書・京都・近世 319 頁)  
寛延元(1748) 天部村年寄 利右衛門(諸式留帳に多数・庶民史料集成 228 頁以下)  
寛延元(1748) 天部村年寄 利兵衛・利右衛門(8月27日、同上 231 頁)  
宝暦 3 (1753) 理右衛門(中島論文・人間文化)  
宝暦 4 (1754) 京三条太鼓屋(橋村か・大津若宮神社)  
宝暦 5(1755) 利右衛門(京都・近世 319 頁)  
宝暦九(1761) 理兵衛(福勝寺・室根)  
宝暦 13 (1763) 理右衛門(中兼、元文利右衛門花押とは異なる)  
明和 6(1769) 利右衛門(京都・近世 319 頁)  
文化 10(1813) 理兵衛(大笹屋太鼓)  
弘化 4(1847) 天部村西町西側 橋村理兵衛 綱友(大笹屋太鼓)  
明治 2 (1869) 本家太鼓師 橋村利右衛門 里重 天部村南(北字を抹消して加筆) 入口北西角(大笹屋上賀茂やすらい祭)  
——・  
時期不明  
年久東大寺彩繪胴鼓の皮両面 理兵衛・橋村理兵衛(ともに花押がある、写真なし、『奈良六大寺大観』105 頁)  
橋本儀兵衛：京天部内西丁南角(\*「本」字は确实、実名利 を名乗っている、梅津太鼓店)  
元禄皆元 橋村儀兵衛(福正寺太鼓：) 元禄皆元の読みで良いのか・表にも署名花押(三浦彌市)  
時期不明 本家太鼓師橋村利右衛門天部村北ノ入口北側角(辻ミチ子著書)

このようにして様々な手法で江戸時代以前には賤視され賤民とされていたはずの人々の業績を確認した。幕府や藩からの注文を一手にうけて、一度にいくつもの太鼓を製作修理していた。当然に地位は高かったし、橋村をはじめとする苗字の使用や花押の使用はそうしたステータスに対応するものだ。

今回の調査によって被差別民衆を考える上で、これまでの常識に大きな疑いが生じた。

河原ノ者は河原に住んでいたと教科書に書かれるけれど、都市の拡大によって、穢多村が新たな郊外に移転させられる。移転した跡地は市街地となって、そこに寺院が建設される例が京都や長崎で確認できる。寺が立地する場所が河原のはずはない。

穢多は屠者とされる。もし通説のように斃死牛馬の処理のみをしていたのなら、対象は既に死んでいる。屠殺はしていないのだから、屠者ではない。農民は牛馬が売れるうちに博労(伯楽)に牛馬を売却していたのではないか。そうであれば農村で病死・事故死する牛馬は例外的な存在になる。博労が穢多村に引き渡して、そこで屠殺したのであろう。それではなければ良質の皮革も肉も得ることはできなかった。

牛馬を殺してはならないという禁令はしばしば出されているが、それは百姓を対象としたもので、権力者自身が良質の皮革製品、鎧や鞍や太鼓を求めていたのだから、屠殺による牛馬皮革の確保・加工は黙認であろう。

またケガレから差別を説明しようとする傾向が顕著である。非人がケガレた存在ならば、かれらによるキヨメは不可能で、逆にケガレを拡大することにしかならない。これは歴史的事実に反する。

今回の科学研究によって、これまでの研究が描いてきた賤民像は、実際の民衆社会実像とは相当に異なったものであるという感触が得られた。今後この視点を継承させていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

井岡康時「奈良県編『教育参考資料』の概要とその背景」研究紀要 (19), 1-20, 2015-03 奈良県教育委員会

井岡康時「嘉永元年の「小児角力」：地域史のなかの子ども像を考えるために」Regional (15), 22-31, 2015-01

奥本 武裕木村京太郎日記(1)水平社博物館研究紀要 (18), 1-56, 2016-03 水平社博物館

奥本 武裕「中尾靖軒と森田節齋：幕末・明治初期、被差別部落出身青年の修学経験」研究紀要 (20), 1-22, 2016-03 奈良県教育委員会

奥本 武裕「その後の北山十八間戸」研究紀要 (19), 41-60, 2015-03 奈良県教育委員会

奥本 武裕「服部英雄氏の近著『河原ノ者・非人・秀吉』をめぐって」奈良人権・部落解放研究所紀要 (31), 63-71, 2012 奈良人権・部落解放研究所

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 7 件)

竹中友里代『八幡菖蒲草と石清水神人』地域資料叢書12・2012(服部英雄研究室)

中村久子「ふたつの太鼓」『歴史を歩く 時代を歩く』2014(服部英雄研究室)

李由紀「食肉産業の現場を歩く」『歴史を歩く 時代を歩く』2014(服部英雄研究室)

服部英雄「聞書集」

1 佐々木哲哉先生から 2 差別を乗り越える 3 にかわつくり

4 「とろす」メモ 5 船住まいの家族

6 小泉八雲がたずねた芸能村

史料『心』Kokoro Appendix “Three Popular Ballads”

『歴史を歩く 時代を歩く』2014(服部英雄研究室)

堤亮介『大分市萩原、歴史・文化の検証：近世～近代を中心に』地域資料叢書14・2016(服部英雄刊)

中村久子『対馬非人史料 諸覚書』地域資料叢書15・2016(服部英雄刊)

服部英雄『太鼓の履歴書』地域資料叢書15・2016(服部英雄刊・印刷中)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
服部英雄(Hattori Hideo)のホームページ  
<http://www.scs.kyushu-u.ac.jp/~hatt/home.htm>

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

服部英雄 (HATTORI Hideo)  
九州大学名誉教授  
研究者番号：60107521

##### (2)研究分担者

五味文彦 ( GOMI Fumihiko )  
放送大学・教養学部・教授  
研究者番号：60011326

##### (2)研究分担者

神田由築 ( KANDA Yutuki )  
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授  
研究者番号：60320925

##### (2)研究分担者

高野信治 ( TAKANO Nobuharu )  
九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授  
研究者番号：90179466

##### (3)連携研究者 なし

( )

研究者番号：